

比奈知ダム環境新聞

第29号

H23年 10月 31日(月)発行

台風が連続襲来

豪雨災害一刻も早い復旧を!

●これも地球温暖化の影響でしょうか? 今年は、台風が7月中旬の“6号”、9月の“12、15号”と立て続けに来襲しました。これにより、三重県南部・奈良県南部・和歌山県には大規模な豪雨災害が起きました。台風による湿った暖かい気流の影響を受けやすい、比奈知ダム上流域にも大量の雨が降り、“ダム地点”での7月~9月(3ヶ月)の雨量は約1,200mm。これは例年の約2.1倍、年間の80%にあたります。

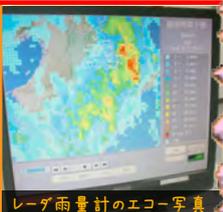
●特に大型の台風12号は、強い勢力でゆっくり進んだため、8月31日から5日間に渡って雨が降り続き、“ダム地点”での総雨量は553mm、最上流の奈良県御杖村の“神末地点”では、なんと1,281mmを観測しましたo(@x@)o

この大雨でダム湖には洪水(最大時は毎秒460m³)が流れ込み、ダムでは他のダムと連携して、下流河川の氾濫を防ぐために、洪水の一部をダム湖に貯める「洪水調節」を行いました。



台風12号

9月2日18時記録
 時速:約15km
 中心気圧:965hp
 中心付近の最大風速:30m



●この台風の強風と大雨によって、ひどい濁りと大量の流木に見舞われたことから、“ダム上流域”を調査したところ、大きな被害を受けていました!



ダム上流域では大規模な土石流が発生! 山の被害を確認してきました!!

比奈知ダム環境新聞 第29号

H23年10月31日(月)発行

台風通過後の 上流域を緊急調査!



土石流で運ばれた大量の流木が、無惨にも道に横たわっています。

その凄まじい破壊力に
自然の脅威を感じました…。

とんでもない
置き土産の
数々…。



●草木で覆われている森林には、水を蓄え、山の斜面を守り、土砂崩れを防ぐ『力』(多面的機能)がありますが、これにも限界があり、大量の雨や暴風が起こると、“崖崩れ”や“土石流”といった“土砂災害”が発生します。今回、特に雨の多かった「神末雨量局」周辺を確認したところ、大規模な“山崩れ”によって“土石流”が発生していました。川には大量の土砂や流木が流れ込んだ跡があり、山林を管理する道路は到るところで寸断され、復旧にはかなりの時間がかかることがわかりました。また、地盤が緩んでいる箇所も見受けられ、今後も“土砂災害が起きやすい状態”になっていました。

恐ろしい土砂災害が発生!!



●被災状況から、今まで自然の恩恵により、良好な水質・水量を保ってきた名張川の水資源にも影響を与えることから、利用している下流の私たちは、この復旧・保全を援助していく必要があるのではないのでしょうか？

比奈知ダムでは、今年の大雨がダム湖に与える影響を観察し、出来る事から水資源の保全に努力していきます!

ダムの最新情報は
こちらのQRコード
から入手できます

【比奈知ダム携帯サイトアドレス】
<http://kokoten.com/u1/hinachidam/>